

# 古代から続く祈りの道 - 大和の石仏巡行 -

## 第12回 平群町・金勝寺の石仏



元 久留米工業高等専門学校教授  
伊藤 義文

### 1. 地理

奈良県平群町の橿原山<sup>へぐり</sup>金勝寺<sup>しではら</sup>は、生駒山地と矢田丘陵の間を流れる竜田川に迫る薬師山の麓にあり、付近は馬鍬湖<sup>まぐわぶち</sup>と呼ばれる溪谷となっています(図1)。竜田川は、生駒市からこの平群町を流れ、斑鳩町内で大和川に合流する1級河川ですが、古くから和歌の名所として知られています。百人一首にも在原業平の「千早ぶる神代もきかず龍田川 からくれなるに水くくるとは」が有名で、紅葉の名所でもあります(図2)。

### 2. 歴史

金勝寺は天平十八年(746年)に聖武天皇勅許の行基によって創建されました。最盛期には十間四面の金堂・大講堂・阿弥陀堂・護摩堂・三重塔・三十六坊を持つ一大伽藍でしたが、天正年間(1573～92年)前半、松永久秀の兵火によって焼亡しました。その後、本堂・護摩堂等六坊が再建されましたが、明治16年に本坊、宝蔵庫等を焼失、明治35年に本堂を再建、昭和44年に阿弥陀堂を新築、塔中二ヶ坊を再建しています。現在は、本堂、阿弥陀堂、大日堂、鎮守

三社、宝室神社、総門、南門、東門などがあり、本堂の南に磨崖石仏群(室町時代中期)が残っています(図3)。竜田川対岸の山上が塔中坊跡(墓地)になっており、十三重石塔(鎌倉時代)、十三仏(室町時代)、六地藏(江戸時代)等も残っています。

### 3. 石仏

#### 3.1 磨崖石仏群

本堂の南に高さ9m、幅6mの花崗岩の自然岩面があり、ここに磨崖石仏群が彫られています(図4)。以下、図中の番号に従って説明します。

##### ① 岩壁に線刻された不動明王像

自然の風化や苔などで姿が分かりにくくなっています。金勝寺には不動明王像の拓本があり、これを参考にすると、不動明王像は右手に剣、左手に羂索繩を持って岩座に立っています(図5)。右下方に「僧快慶」の銘があることから、鎌倉時代に2度にわたる元寇を迎えた幕府が「敵国降伏」を願って造立したもので、当時この磨崖仏の前に護摩壇が組まれ、祈祷が行われたと言われています。



図1 金勝寺付近の竜田川溪谷

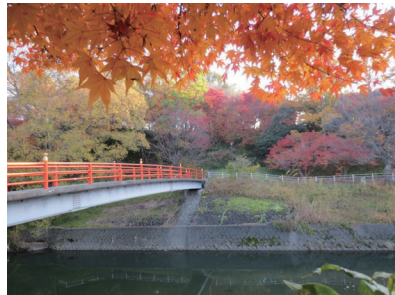


図2 紅葉の名所でもある竜田川



図3 金勝寺の全景

CONVERTECH CONVERTECH CONVERTECH CONVERTECH CONVERTECH CONVERTECH CONVERTECH CONVERTECH CONVERTECH



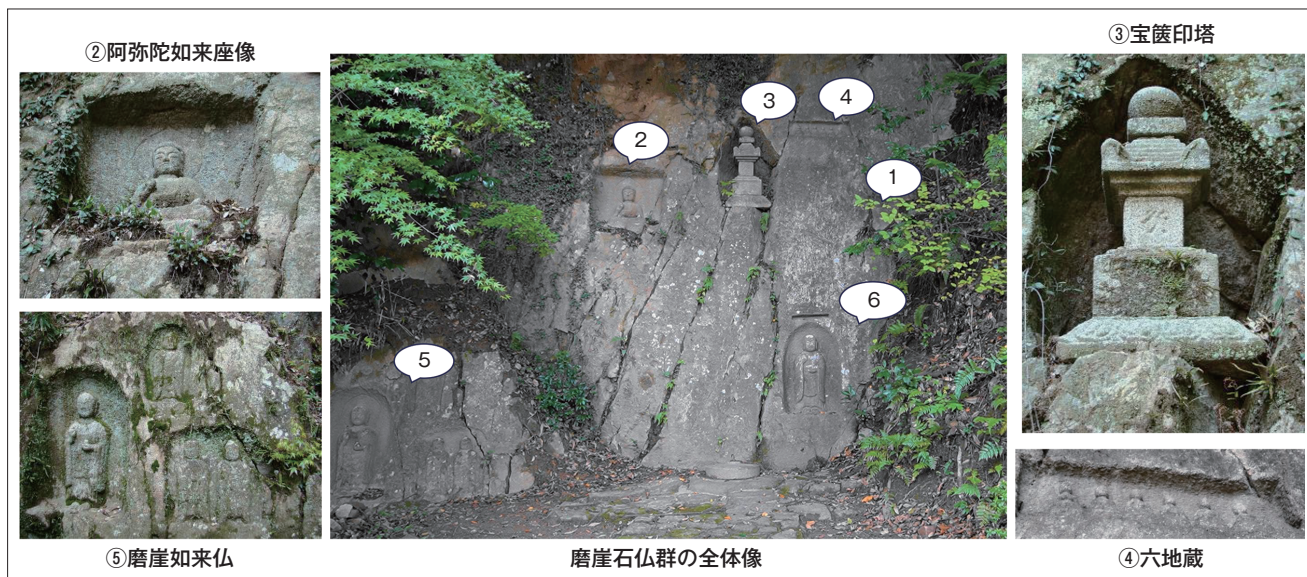


図4 金勝寺境内の磨崖石仏群



出所：金勝寺HP

図5 不動明王像の線刻の拓本



図6 ⑥茶々の逆修

### ②阿弥陀如来座像

方形の彫り込みの中に高さ56cmの阿弥陀如来像を浮き彫りしています。彫り込みの上にある横穴ほぞあなには当初笠石のような雨除けがあったと思われます。

### ③宝篋印塔

宝篋印塔は一切の災難から助かることを願い、塔身部に宝篋印陀羅尼経という経典を納めた

ことからこの名があります。塔の高さは88cmです。

### ④六地藏

小型の地藏菩薩像を6体横に並べて祀ったものです。

### ⑤磨崖如来仏

右上部の石仏に続いて室町時代から江戸時代にかけて追刻された石仏群で、中央に見える矢田型地蔵には「康正二年丙子六月日(1456年)」の造立年号があります。

### ⑥茶々の逆修

船形に彫り込んだ高さ70cmの地藏菩薩立像が彫られています。像の脇に「茶々逆修」「天正十四年丙戌卯月二十四日

(1586年)」の刻銘があります。興福寺の「多聞院日記」によると、戦国時代に平群谷を支配した武将・嶋左近<sup>1)</sup>の妻「茶々」の逆修供養の仏として造立されたものと言われています(図6)。逆修とは生前にあらかじめ自分のために仏事を修して死後の冥福を祈ることをいいます。

## 3.2 十三重石塔

金勝寺の山門に対面する川向かいの山上にある榎原墓地を訪ねてみました。この墓地は、近隣地区の共同墓地となっており、かなり大きな面積の墓地になっています。中心部には古くからの石仏が集められており、その周辺に貴重な石仏が置かれています。

墓地の北東奥には鎌倉時代建立の花崗岩製の十三重層塔があり、平群町の文化財に指定されています。高さ約4.4m、一層目笠は幅0.9m、軸身幅0.49cmで、塔身には月輪に囲われた種字を刻んでいます。四方仏には金剛界四仏(阿闍如来、阿弥陀如来、不空成就如来、宝生如来)の種字が彫られています(図7)。

## 3.3 十三仏板碑

六地藏の横に、高さ173cmの十三仏板碑が並んで建っています(図8)。この十三仏は鎌倉時代に全国的に広まった民間信仰で、十三仏の名前を唱えると初七日から三十三回忌までの追善

1) 嶋左近: 嶋左近は近畿地方の戦国武将(1540年~1600年)。元は大和の国人として、筒井順慶をはじめ数々の大名に仕え、後に石田三成に三顧の礼をもって迎えられた。豊臣秀吉の朝鮮出兵に石田三成と共に参戦している。関ヶ原の戦いでは西軍に付いて有利に戦いを進めるものの、黒田長政に銃撃されて負傷。最後は黒田軍に突撃して戦死したとされる





図7 十三重石塔と塔身の金剛四界の種字



図8 十三仏石塔と尊名

供養（あるいは逆修供養）<sup>2)</sup>を一度にできるとされています。船形の板碑に十三の尊像が浮き彫りされています。各仏像の肩先には図中に示すように尊名が刻まれています。室町時代後期である「天文二十二年（1553年）三月十五日」の銘や「新三郎逆修」の銘文から逆修供養として造立されたことがわかります。

### 3.4 地藏菩薩立像・六地藏（図9）

墓地の入口には地藏菩薩立像が建屋に囲われて立っています。地藏菩薩は釈迦が入滅してから弥勒菩薩が成仏するまでの無仏時代の衆生を救済することを釈迦から委ねられたとされ、墓地入口に置かれていることからお迎え地藏ではないかと思われます。

入口から少し入ると、前述の十三仏板碑と六地藏が整列しています。六地藏は左端の一体が室町時代のもので、その他は江戸時代のもと言われています。人は死後、生前の行為の善悪の結果によって、地獄・畜生・餓鬼・修羅・人間・天という六道の境涯を輪廻転生すると言われています。そのそれぞれの衆生救済のために配される地藏を六地藏といい、祀られています。

## 4. まとめ

鎌倉時代頃から全国的に広まった十三仏や六地藏に対する信仰は、室町時代、江戸時代にかけて庶民の間でますます盛んになり、追善供養や逆修供養も行われるようになって

2) 追善供養・逆修供養: 自分より先に亡くなった年長者に対して冥福を祈る法要を追善供養というのに対し、生きている間に自分の死後に対してまたは自分より若くして亡くなった者(子や孫など)に対して冥福を祈る法要を逆修供養という。なお、生きている間に建墓し、その墓石に自らの名前または戒名を朱書きすることを「逆修の朱」といい、その墓石を「逆修塔」という



図9 地藏菩薩立像と六地藏

てきました。金勝寺には茶々逆修と刻銘されたお地藏さんが祀られています。従来、茶々は豊臣秀吉の側室（淀殿）と考えられていましたが、近年の調査により平群谷を支配した戦国武将・嶋左近の夫人の名前とされています。

今回の石仏の動画はYouTubeにアップロードしていますので、ぜひ次のキーワード検索で美しい動画をご覧ください。ありがとうございます。

・検索：平群町・槻原 金勝寺の石仏 - YouTube

URL: <https://studio.youtube.com/video/24Qe3nWZyCc/edit>

### 著者略歴



1947年生まれ。72年、京都大学大学院卒業。以降、民間企業にて真空蒸着技術のフィルム応用や各種包装材料の開発に携わる。2004年、久留米工業高等専門学校教授。15年、退職。ライフワークとして石

仏調査を行い、その成果をYouTube (<https://www.youtube.com/channel/UCvJiTXSHW2MoqwzdzpszXcOQ>) に公表している。

✉ itou910@zeus.eonet.ne.jp